経営比較分析表（平成29年度決算）

大阪府地方独立行政法人堺市立病院機構　堺市立病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
地方独立行政法人	病院事業	一般病院	400床以上～500床未満	非設置
経営形態	**診療科数**	**DPC対象病院**	**特殊診療機能　※１**	**指定病院の状況　※２**
直営	30	対象	ド 透 Ｉ 訓 ガ	救 臨 が 感 災 地 輪
人口（人）	**建物面積（㎡）**	**不採算地区病院**	**看護配置**	
－	41,014	非該当	７ ： １	

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
480	－	－
許可病床（精神）	**許可病床（感染症）**	**許可病床（合計）**
－	7	487
稼働病床（一般）	**稼働病床（療養）**	**稼働病床（一般＋療養）**
480	－	480

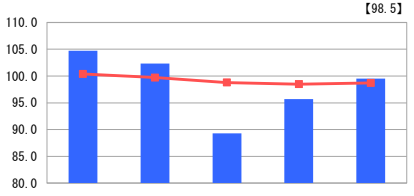
※１　ド…人間ドック　透…人工透析　Ｉ…ＩＣＵ・ＣＣＵ 未…ＮＩＣＵ・未熟児室　訓…運動機能訓練室　ガ…ガン（放射線）診療
※２　救…救急告示病院　臨…臨床研修病院　が…がん診療連携拠点病院　感…感染症指定医療機関　へ…へき地医療拠点病院　災…災害拠点病院　地…地域医療支援病院　特…特定機能病院　輪…病院群輪番制病院

グラフ凡例
■　当該病院値（当該値）
ー　類似病院平均値（平均値）
【】　平成29年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性

①経常収支比率(%)

【98.5】

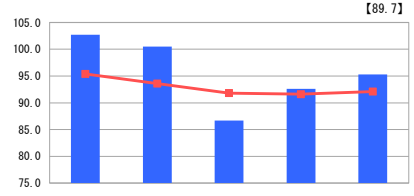


	H25	H26	H27	H28	H29
当該値	104.7	102.3	89.3	95.7	99.5
平均値	100.4	99.7	98.8	98.5	98.7

「経常損益」

②医業収支比率(%)

【89.7】

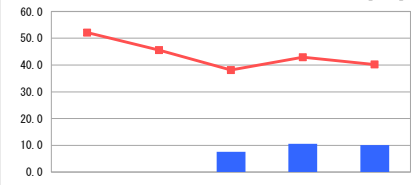


	H25	H26	H27	H28	H29
当該値	102.7	100.5	86.7	92.6	95.3
平均値	95.4	93.6	91.8	91.6	92.1

「医業損益」

③累積欠損金比率(%)

【64.7】

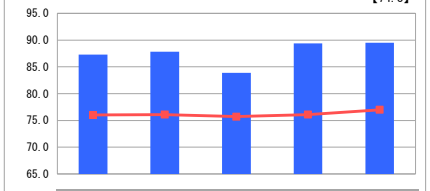


	H25	H26	H27	H28	H29
当該値	0.0	0.0	7.6	10.6	10.1
平均値	52.1	45.6	38.1	42.9	40.2

「累積欠損」

④病床利用率(%)

【74.8】

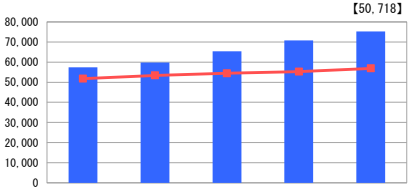


	H25	H26	H27	H28	H29
当該値	87.3	87.8	83.9	89.4	89.5
平均値	76.0	76.1	75.7	76.1	77.0

「施設の効率性」

⑤入院患者１人１日当たり収益(円)

【50,718】

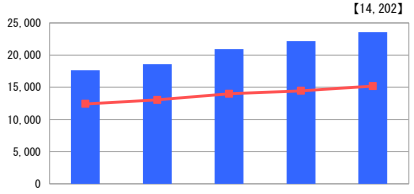


	H25	H26	H27	H28	H29
当該値	57,484	59,769	65,418	70,880	75,216
平均値	51,813	53,447	54,464	55,265	56,892

「収益の効率性①」

⑥外来患者１人１日当たり収益(円)

【14,202】

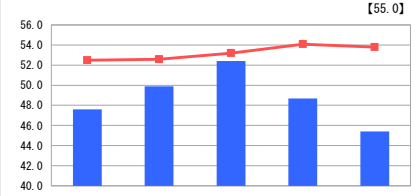


	H25	H26	H27	H28	H29
当該値	17,631	18,599	20,936	22,200	23,567
平均値	12,424	13,027	13,969	14,455	15,171

「収益の効率性②」

⑦職員給与費対医業収益比率(%)

【55.0】

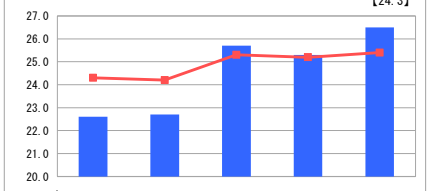


	H25	H26	H27	H28	H29
当該値	47.6	49.9	52.4	48.7	45.4
平均値	52.5	52.6	53.2	54.1	53.8

「費用の効率性①」

⑧材料費対医業収益比率(%)

【24.3】



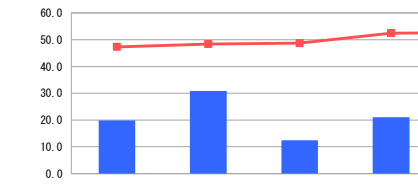
	H25	H26	H27	H28	H29
当該値	22.6	22.7	25.7	25.3	26.5
平均値	24.3	24.2	25.3	25.2	25.4

「費用の効率性②」

2. 老朽化の状況

①有形固定資産減価償却率(%)

【51.6】

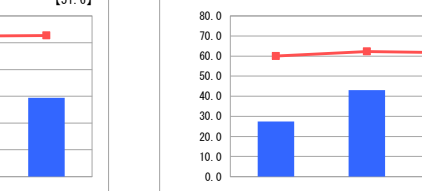


	H25	H26	H27	H28	H29
当該値	19.9	30.9	12.5	21.1	29.4
平均値	47.3	48.4	48.7	52.5	52.7

「施設全体の減価償却の状況」

②器械備品減価償却率(%)

【67.6】

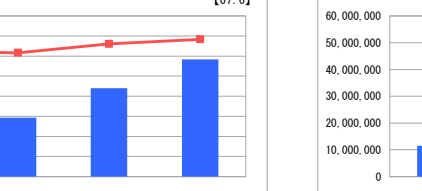


	H25	H26	H27	H28	H29
当該値	27.5	43.1	29.3	44.0	58.4
平均値	60.0	62.3	61.7	66.1	68.4

「器械備品の減価償却の状況」

③１床当たり有形固定資産(円)

【45,442,498】



	H25	H26	H27	H28	H29
当該値	11,446,185	11,649,749	50,838,897	51,437,495	51,632,150
平均値	40,361,969	42,112,933	43,764,424	44,446,754	45,729,936

「建設投資の状況」

※「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。

Ⅰ　地域において担っている役割

・市内唯一の救命救急センターとして、二次救急及び三次救急医療。
・地域医療機関との連携と役割分担に基づき小児医療及び周産期医療。
・感染症指定医療機関として地域の感染症医療における中核的な役割。
・災害拠点病院として地域防災計画に基づく対応を的確に行い、医療救護活動の実施。
・二次医療圏内における小児救急搬送件数の約半数以上の受入れを行っている。

Ⅱ　分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率は100%を僅かに下回ってはいるものの、経常収支比率、医業収支比率、病床利用率および患者1人1日当たり収益において、類似病院の平均を上回っている。
職員給与費対医業収益比率において医業収益の大きな伸びにより給与費率は類似病院の平均を大きく下回ることとなった。
対して材料費対医業収益比率は抗がん剤等の高額薬品の増加、手術関連診療材料の増加等により類似病院の平均を上回る結果となった。

2. 老朽化の状況について

平成27年度の新築移転にあわせて医療機器等更新のものが多いため、老朽化は平均を下回るが、1床当たりの有形固定資産は平均を上回っている。しかし、この医療機器等の充実は医業収益の増加に繋がる理由の１つである。

全体総括

経常収支比率は類似病院平均値を上回っているものの100%未満である。
これは新築移転時に大量に購入した医療機器の減価償却費が主な赤字の原因である。
耐用年数の到来とともに減価償却費が減少し、収支は黒字となる見込み。
また、累積欠損金比率について類似病院平均値を大きく下回ってはいるが、今後累積欠損金が解消されるようさらに経営改善を図っていく必要がある。